



明治大学校友会 市川地域支部報

まつかぜ

第5号

2009
春

発行:明治大学校友会千葉県西部支部市川地域支部 272-0835 市川市中国分4-13-12 発行人:行木勝雄

マンクラ市川公演開催!



20年度計画のハイライトであり、支部始まって以来はじめての「マンドリンクラブ市川チャリティーコンサート」が雨もよりの10月11日市川市文化会館で開かれました。

実行委員の熱意と努力によって入場券は数日前から完売となり、責任者の永井さんは電話口に向かって何回となくお断りの言葉をする始末。入場券を手にした人々が1時過ぎから行列を始め、予定より20分くり上げて開場しました。

コンサートのセレモニーも予定を早め、伊与久委員の司会で始まり、

行木実行委員長が「このコンサートが市民の皆様を楽しませ、市の福祉のために役立つことを願っています」とのべました。続いて千葉光行市川市長代理として文化国際部大滝次長、そしてコンサートマスターの渋谷さんの出身校で市内教育界の重鎮である国府台女子学院平田学院長から温かいご挨拶をいただきました。

幕を開くといっぱいの観客から場内割れんばかりの大拍手が湧き起りました。

プログラムは第1部古典音楽がハングリア舞曲など3曲、第2部心に残る日本の詩では古賀メロディーの影を慕いてなど7曲、第3部マンクラエンターテイメントでは、国府台女子マンドリンクラブの演奏でアイネクライネナハトムジーク、明大との合同演奏で「I will follow him」など2曲、そして観客と一体になってラテンの名曲エル・クンバンチェロなど3曲で幕が下ろされましたがアンコールの声が止まず、2曲がプラスされました。この間、国府台女子マンドリンクラブとの合同演奏後に主催者の市川地域支部から、指揮者をはじめ出演者の皆様に感謝をこめてそれぞれ花束が贈られました。

お客様の女性は「とても良かった。来年も来たいワ」と満足の様子でした。

マンクラコンサートの成功を期そう

— 第4回総会開く —

来賓としてご出席いただいた明治大学校友会本部清水副会長、千葉県西部支部三宅支部長をはじめ柏、船橋、流山、我孫子の各支部長が紹介され、代表として清水様にお祝いのご挨拶をいただきました。議事は行木支部長を議長としてつつがなく進められ、協議の後に全ての議案が承認されました。

しばらく休憩の後、会場を移してミニコンサートの開会となりました。藤田順子さんのピアノ演奏と黒田育子さんのフルート演奏にしばし心安らぐひとときを過ごしました。ステキなお二方の演奏に引き続き、楽しい懇親会となりました。懇親会も盛り上がったところで、阿部監査役の率いる「市川童謡の会」のメンバーによる懐かしい童謡の数々が披露されました。会場の皆が声を合わせて歌いました。

フィナーレは、来る10月のマンドリンクコンサートの成功を祈って、日下副支部長のリーディングによる校歌の斉唱があり、柴山幹事の挨拶により総会を閉じました。



全国校友秋田大会開催

「秀麗無比なる鳥海山よ 狂瀾吼え立つ男鹿半島よ 神秘の十和田は田沢と共に 世界に名を得し誇りの湖水へ」と県民歌に歌われている、美の国「秋田県」で第44回全国校友大会が、平成20年9月14日、全国校友約900名が参加し開催されました。前日「平安閣秋田」で開催された懇親会、前夜祭では、千葉県東部支部の八千代、鴨川、市原の3地域支部が同時に承認され長堀理事長から支部旗が授与され、千葉県の躍進が紹介されました。



「秋田キャッスルホテル」で開催された大会は元ラグビー日本代表瀬下和夫（56卒）騎手による大会旗の入場でスタートし、蒔苗実行委員長から、昨年開催された「第62回秋田わかすぎ国体」で念願の天皇杯、皇后杯に輝き、県民は大きな喜びと感動を得ることが出来た、校友もまたこの自信を伝統ある全国校友大会に結びつけることができました、と挨拶があり、続いて青木校友会長の挨拶の後に、大学から長堀理事長、納屋学長が祝辞を述べ、来賓の寺田秋田県知事、佐竹秋田市長の祝辞がありました。

記念講演では、「津波が変えた私の人生」と題して道下俊一医学博士が、北海道の釧路沖地震の被災地である町立浜中診療所で47年余の献身的な医療活動に従事した体験を語ってくれましたが、会場はその感動で静まり返っていました。懇親会は、なまはげ太鼓の演奏で幕が開き東京六大学を代表して秋田三田会の小玉会長の祝辞があり、校友会野田副会長の乾杯の後、アトラクションで、西馬音内盆踊りに明大チアガールの演技と吹奏楽部の演奏で会場は盛り上がり、最後は全員で校歌を斉唱し万歳で大会は終了しました。

山田顧問リバティアカデミー「オープン講座」で講演

市川地域支部の顧問で山崎製パン(株)取締役副社長、(株)不二家代表取締役会長の山田憲典氏は平成20年5月20日アカデミーコモン2階において、設立10周年を迎えたりバティアカデミーのオープン講座で「食品業界の課題と取組」について講演されました。

消費期限の改ざんや原材料の偽装など、一連の食品業界の不祥事が発生している現状で、業界はどう取り組まなければならないか、またどうして消費者の信頼を回復するのか等について、事業経営の経験に基づいて講演されました。

食品不祥事の背景については、平成12年に発生した雪印乳業食中毒事件および最近のミートホープ、船場吉兆、赤福、白い恋人の実例を挙げ、コストダウン（収益の追求）、安定出荷（サービスの追求）、環境の変化（過去の延長—消費者の意識変化）、ガバナンス欠如（社内基準の遵守違反）等が要因になっており、食品企業の経営のあり方については、食品衛生、品質管理等に対する経営者の意識、経営体質の改善、危機管理対応等の問題について話されました。

最後に世界的な食糧事情の変化に伴い、わが国における食品価格の高騰と食糧不足が予測される現状と世界の穀物事情等についても話されました。

「明治大学教育振興協力資金」募金協力をお願い

平成18年12月に駿河台校舎にて「紫紺館」の落成披露が行なわれました。この紫紺館の建設資金の一部（10億円）は、校友会で負担することが校友会代議員総会、校友会支部長会で決定され、平成16年から10億円の募金目標を立てて寄付をお願いしてきましたが、目標額に達していませんので温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

校友会千葉県西部支部

「定時総会・懇親会」のご案内

日時 平成21年6月28日(日)
 総会 14時～ 懇親会 15時～
 会場 船橋グランドホテル
 会費 五千円

◆会員皆さんが親睦と交流を深められる、またとない機会でありますので是非ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

◆定時総会ご案内状は本部より皆様のご自宅へ郵送される予定です。

《役員変更のお知らせ》

辞任

幹事長 長井 孝介（昭37商卒）

新任役員

幹事長 日下 豊顯（昭37商卒）
 幹事 湯浅起市郎（昭49工卒）
 幹事 大畑 勝（平4商卒）

紫紺の航跡 ①

フェンシング部から
切手研究会へ

印南 博之(昭和36年政経卒)

文学部進学を夢を閉じられて、仕方なく政経学部へと進みました。何をしようかと考えているうちに級友から「オレはフェンシングをやるうと思ってる。君もどうか」とさそわれました。

「フェンシングか。三銃士にエロール・フリン、かっこいいな。よし、やってみよう」と駿河台の部室へ行って入部しました。

あの白いユニフォームへのあこがれは、30分で消えました。基礎練習のキツイこと、2年生の指導のやり方はまるで陸軍の新兵教育かと思えばかり。

中腰の構えから突きのステップは、日頃使っていない腰から太ももを痛めつけ、お茶の水駅階段は手すりをつかまっ上るありさま。

当時、清心女子大や女子体育大の選手が練習に来ていて、3、4年生との剣の突き合いを1年生は指をくわえて見ていました。

苦しい合宿を乗り越え、駿台祭のアトラクションの剣道部へ異武道体験へ行ってみるとこれは文化の違いを体験する良いチャンスであった。

運動部流のしごきには耐えられないなと思ひ初めた2年生の春、フェンシングに別れを告げました。

それは、三省堂で開かれた「大学郵趣連盟」の切手展を見た時のこと「そうか明治にも切手研究会を作ればいいのだ」という思いが湧いて来たのです。

小学校時代から切手収集を開始、千葉、市川と地元の郵趣会に加入して、大人のコレクターからいろいろ教えてもらったり、収集品を分けてもらったりし、高校でもささやかながら研究会を作って文化祭に出品したことがあり、その経験はフェンシングどころではなかったのです。

その時タイムニング良く「東京中日新聞」の募集欄に「明大に切手研究会を作ろう」という呼びかけが掲載されました。学校の掲示板へポスターを出したいと思っただけ、こんな手があったか、と集場所へ行ってみると小生が応募第一号、早速4年生の井田さんと会作りに動き出しました。

教室を借用して例会を開き、大郵便への仮加入、会費の収納、機関誌の編集、そしてやっと駿台祭で切手展を開くことが出来、しかも神田郵便局が移動郵便車を出して記念スタンプを押してくれました。これが効を奏して学長賞新人賞を受賞することができたのです。

切手収集を通じてデザインや印刷技術などを、中国の切手をはじめ外国の切手に親しんで国際事情に関心を持ったことが、その後の仕事に大変役立つとは夢にも思いませんでした。

紫紺の航跡 ②

明村 澄雄(昭和47年政経卒)

明治大学に入学したのは昭和43年、70年安保闘争を間近にした学生運動の最も盛んな頃でしたが、新潟の高校を卒業して上京した私の大学生活が始まりました。桜の花が満開の武道館での入学式を終え、初めて和泉キャンパスへ行くときキャンパス中タテカンだらけという光景でした。様々なサークルの勧誘があるなかで音楽好きの私は最初フォークソングクラブへ足を運びましたが、部室の前で部員が演奏しているのを聞いて気後れして、何となくその2階の広告研究部へ行ってみたのです。何やら楽しそうな雰囲気だったので、そのまま入部してしまいました。授業は時々サボってもサークルの部室には必ず顔を出して、行きつけの喫茶店で仲間と駄弁ったり、面子を集めて雀荘へ行ったりという毎日でした。

広告研究部というサークルは大正時代から続いている古い(由緒のある?)サークルですが、和泉キャンパスでの和泉祭と本校での駿台祭では研究成果や広告作品の発表などを行っていました。研究発表のパネルをレタリングで作成したり、広告作品のため徹夜で準備したりといった具合です。また、東京学生広告連盟という東京地区の主な私大の広告研究サークルが集まった組織があり、毎年学生広告作品展を開催していました。それに応募してテレビCM部門で銅賞になったこともありました。もともとテレビCMという

も、今の学生ならビデオ撮影で作成するのでしようが、その頃は今のようないビデオカメラもなく、お金もないのでコマ割りの絵コンテで作成した作品でした。毎年夏休みには千葉県鋸南町の保田海岸で合宿を兼ねた「キャンパストア」をサークルで経営していましたが、これが文系サークルにもかかわらず、なかなかハードな合宿で、朝起きると早朝マラソンと称して町内を「おはようございます」の声を掛けながら一周して、それから回り持ちの食事当番がその頃でも珍しくなっていた。ご飯を炊いての自炊、お米は各自持参でした。海辺のお店では客集めのため、店の前の砂浜でフォークダンスを行うのですが、その準備としてバケツで海から海水を汲んで砂浜に撒く作業があつて、これが10往復もするとフラフラになってしまうほどの重労働です。

店内ではその頃盛んだったフォークソングのアマチュアバンドに出演・演奏してもらっていましたが、まだプロデビューして間もない森山良子さんに無料出演してもらい、自炊のカレーライスと一緒に食べてもらったこともありました。夜は皆でいろいろ出し物を演じたりで楽しいのですが、合宿中は飲酒厳禁のルールなので皆素面で騒いでいました。

こんな学生時代でしたが、長男が同じ明治大学に入学したことで大学父母会の役員を引き受けることになり、昨年は父母会の研修会の後、鋸山に納谷学長と一緒に登り、保田の海岸を眺めて、懐かしい思いで一杯でした。サークルの仲間たちとは今でも毎年忘年会で顔を合わせ、交友を暖めています。

くマングラ余話く

明大マンドリンクラブ

市川チャリティーコンサートを終えて

2008年10月11日の市川市文化会館大ホールは、割れんばかりの拍手と歓声で埋め尽くされた。

一部古典音楽、二部心に残る日本の詩、三部マングラエンターテイメントとそれぞれに変化に富んだ素晴らしい演奏に、満席となった2000席のお客様は暫し時の流れも忘れ、こころ豊かなひとときを過ごされたようだ。もちろん私たち校友会員の「明大魂」も、色濃く紫紺に染まり、青春の血潮が熱く滾り、甦れ青春！とばかりの感動に浸ることができた。

市川地域支部にとって創設4年目にして初めて取り組んだこの大イベントを、何としても成功させたいという強い信念と情熱は、行木支部長・長井幹事長を中心に役員的一致団結した実行委員会を生み出し、更に山田顧問の特段の参画も得て、最強のチームワークで臨んだ。国府台女子学院マンドリン部の賛助出演というかけがえのない応援もいただき、その結果として、多くの市川市民の高い評価を得、感動と声援の嵐を呼んだ。

チャリティーご招待をさせていただいた身体障害者団体の方々や地域福祉活動を続ける地元小学校の吹奏楽部の子供達も、「楽しく、心に沁み入るマンドリンの調べにいつしかスウィングしていた。元気をたくさん貰った。」と目を輝かせて語ってくれた。

チケット売り上げの一部を当初の予定通り、明大校友会本部、市川市、市川市社会福祉協議会に寄付できたことはこの

上ない喜びである。

3月24日市川市長より、私たち地域支部の市川市における今日までの地域貢献活動と、併せて今回の寄付に対し感謝状が贈られた。

一年余の準備期間は、紆余曲折、多事多難であった。特にチケット販売では、かなりの苦戦を強いられたが、実行委員一人一人の粘り強い努力と多くの校友会員のご協力により、目標を上回る結果を出せたことは、「勇気を出して挑戦してよかった」という成就感となり、支部活動の一層の弾みとなった。

とにかく色々あったが、全てがよい経験となり、たくさん学びをした。そして、なによりも素敵で楽しい時間を過ごせたことに「感謝」「感謝」。

ゴルフ同好会

平成20年度ゴルフ同好会活動報告

20年度は恒例の年3回(第7回・第8回・第9回)コンペのうち、第7回は4月18日開催の予定であったが、残念にも当日は突然の春の嵐にみまわれて急遽中止となり、5月16日に順延となりました。

雨降って地固まるの諺のとおり、此れを機に同好会メンバーの絆がより深まり、第8回、第9回と会を重ねる度に参加者も徐々に増え、何でも気軽に語り合える楽しい集いとなり、お互いの親睦を更に一層深める事が出来ました。

また、月館会長のご提案で、同好会メンバーは明治大学のOBとして、母校明治の名声を少しでも高められるよう、お互いに啓蒙し合おうとメンバー各位に対し3つのお願いがありました。

1. 人を呼ぶときには「呼び捨て」や「君」

は止めて「さん」と呼びましょう

2. 気がついたことは幹事や年少者に言いつけずに、自ら率先して行動しましょう

3. 他人を気遣い、楽しい会になるように心がけましょう

平成20年末時点での会員は総勢28名ですが、特筆すべきは、年末に紅一点の参加希望者があり、21年度からは更に楽しい会になる事を期待しております。

最後になり誠に恐縮ですが、行木支部長より市川支部よりゴルフ同好会に対する支援金を賜り、大会の賞金に当てさせて頂きましたので遅ればせながら報告させていただきます。

カラオケ同好会

カラオケ同好会は第一回を平成18年5月に行い、回を重ねて第12回を数えています。

会員は現在24名で、年4回例会を開催しています。今年度は3月15日(実施済み)、6月14日、9月13日、12月13日(忘年会を兼ねる)の各日曜日に開催することとしていきます。会場は本八幡駅北口の近くの、「すなっく京」(ママが大変協力してくれています)で午後2時~5時半で行って居り、出席者は平均18名前後でなかなか盛況です。

例会の形式は、出席者をくじ引きで、紅、白に分け紅、白対抗戦として行い、その合計点により勝敗を競っています。戦いは、一点差の勝負あり、大逆転の勝負ありで大変白熱した歌合戦です。勝った組にはささやかですが賞品を出しています。又この歌合戦にはジンクスがあり、対抗戦形式となつてから紅組が現在まで

7連勝をしています。白組がいつ勝つか興味のあるところです。

最近では会員の皆様のレベルも上がり、かなりな高得点で競っています。ちなみに前回の例会の平均点は約92点でした。

歌合戦が終わると一息つき、その次はママ提供のビンゴゲームを楽しみ、後は時間の許す限り各自好きな歌、次回に備える歌等歌い最後に校歌を全員で斉唱し散会というような内容で行っています。

皆様一杯飲みながら歌い、且つ談笑し楽しい雰囲気の中一時を過ごしております。

カラオケ同好会は気軽な会をモットーとして行っています。

ご入会をお待ちしています。

会長 小菅 公

幹事 佐川 清、齋藤 英夫、

芹川 恵一

入会希望の方は佐川迄

(337・4487)

ハイキング同好会

今回のテーマは「いづれがあやめかきつばた」で、金町駅に8名が集合、都立の水元公園へ向かいました。

折から菖蒲祭りの真っ最中、花も良ければ人もよしと、陶器市までやっている公園の西端のかわせみの里まで散歩の足をのびしました。

サップロを思わせるポプラ並木もその芽ぶきが美しく初夏の風情にひたりました。園内の涼亭でそばを味わい曇空の涼風に身体を暖めました。

(印南記)